

船舶事故調査報告書

令和2年3月25日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	転覆
発生日時	令和元年9月17日 02時30分ごろ
発生場所	静岡県浜名湖 <small>いまきれぐち</small> 今切口南方沖 浜名港口離岸導流堤灯台から真方位180°50m付近 (概位 北緯34°40.3′ 東経137°35.9′)
事故の概要	漁船 <small>ほっこく</small> 豊國丸は、航行中、転覆した。
事故調査の経過	令和元年9月20日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	漁船 豊國丸、7.3トン
船舶番号、船舶所有者等	S02-5407（漁船登録番号）、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	機関、航海機器等に濡損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風力 2、視界 良好 海象：波向 南南東、波高 約2m、水温 約27℃ 浜松市南部には、9月16日16時36分に波浪注意報が発表され、本事故時も継続中であった。
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者1人を乗せ、底立はえなわ漁を行う目的で今切口を出たところ、波が高いので漁を断念して帰航することとし、反転して今切口に向けて北進中、船尾方から波を受け、波乗り状態となって左舷側に傾斜しながら船首から波の谷間に突っ込んで一気に転覆した。 船長は、操舵室から脱出して付近の海岸に上陸した。 同乗者は、空気がある船内にとどまって防水型の携帯電話で知人に救助を要請し、本船が海岸に漂着した後、船室から脱出して来援した消防に救助された。 船長は、出港前にインターネットで気象予報等を見て波高が約2mであることを確認し、出漁するか迷ったが、出港して海況を見てから操業の可否を判断しようと思っていた。 船長及び同乗者は、本事故当時、救命胴衣を着用していた。
分析	本船は、約2mの波が発生している状況下、船長が海況を見てから操業の可否を判断しようと思い、出港したことから、漁を断念して帰航する際、追い波を受ける状況となり、波乗り状態となって左舷側に傾斜しながら船首から波の谷間に突っ込んで転覆したものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、本船が、約2mの波が発生している状況下、船長

	<p>が海況を見てから操業の可否を判断しようと思ひ、出港したため、漁を断念して帰航する際、追い波を受ける状況となり、波乗り状態となって左舷側に傾斜しながら船首から波の谷間に突っ込んで転覆したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 船長は、^{たん} 堪航性、気象、海象等を考慮し、出港前に航行及び操業の可否等を慎重に判断すること。